

# CASBEE新潟 | 評価結果



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版  
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

## 1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	株式会社熊谷 岩室工場 西蒲区 指定なし 事務所, 工場, 2011年1月 予定 10,624.39 m <sup>2</sup> 2,203.68 m <sup>2</sup> 2,946.78 m <sup>2</sup> 地上2階 S造 実施設計段階評価 2010年6月4日	
---	---	--

## 2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{52}{32} = 1.6$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.7		バリアフリー	3.0
			維持管理	3.5
			更新性	4.5
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.1		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.2
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	4.0
			リサイクル材の使用	4.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.5		生物環境の保全・創出	2.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	2.5		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	2.0

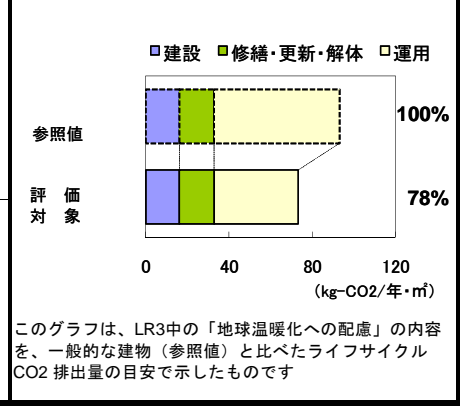
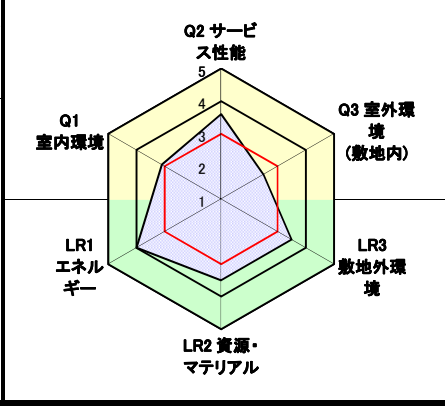
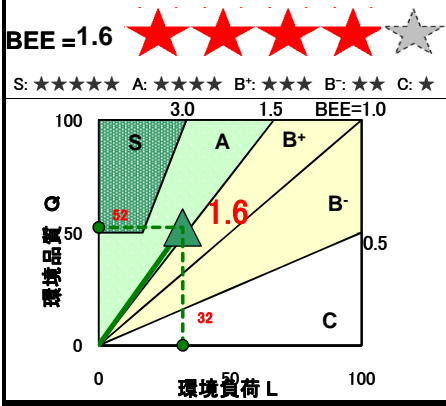
## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- ・配管配線ルート合理化し維持管理を容易にするとともに、設備の更新性を良好にするよう計画している。
- ・鉄骨や鉄筋の材料は電炉製品を採用し、再生クラッシャーランを使用するなど再生資源を有効に活用するよう計画している。
- ・敷地内は生産施設として必要不可欠な場所以外、可能な限り緑化するよう計画している。

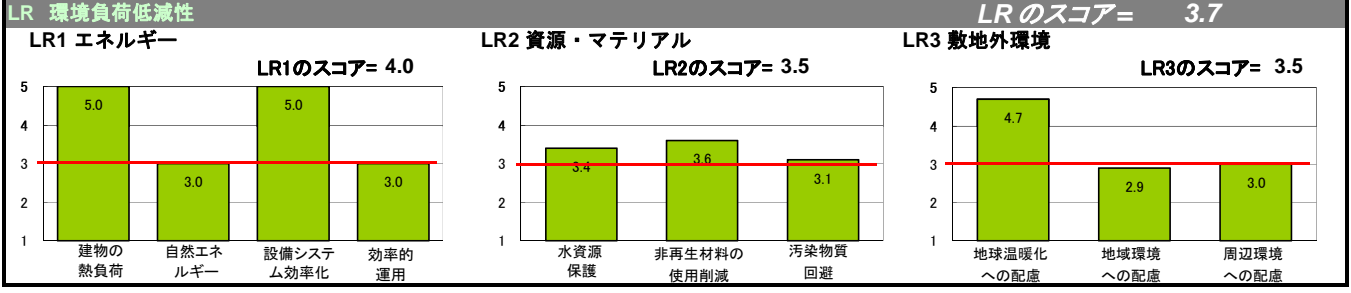
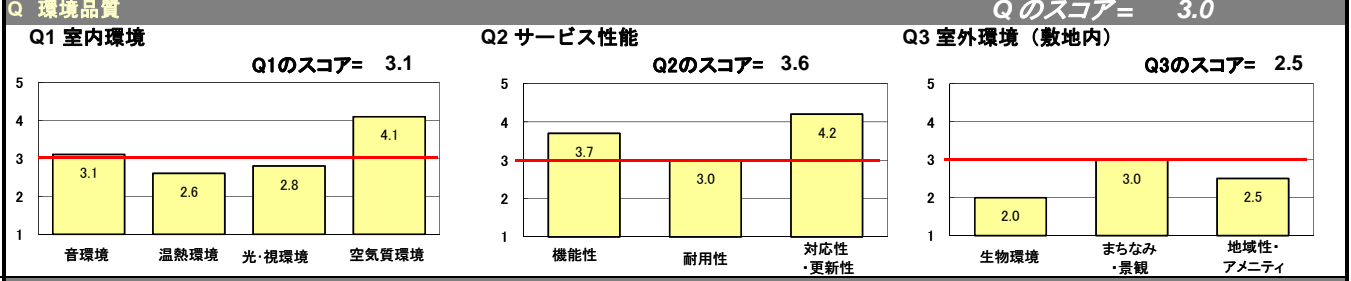
# CASBEE<sup>®</sup>新潟 | 評価結果内訳 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築 (簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

**2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)** | **2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)** | **2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)**



**2-4 中項目の評価 (バーチャート)**



**2-5 設計上の配慮事項**

<b>総合</b> 敷地状況や施設の特徴、コスト節約の中で出来得る配慮を行った。気密性・断熱性、設備の更新に留意した。	<b>その他</b>
<b>Q1 室内環境</b> 外皮性能を高め、温熱環境及び遮音性能を図った。化学汚染物質の発生を低減するよう使用材料に配慮した。 十分な照度の確保と適正照度を維持する。	<b>Q2 サービス性能</b> 設備等の更新がし易い建物となるよう計画した。設備系統の更新も考慮した階高設定(ISS)を行った。
<b>LR1 エネルギー</b> 建物の断熱性能の向上及び照明器具の人感制御の採用により省エネルギー化を図った。また、換気設備については、全熱交換器を採用し、外気負荷の低減を図った。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 低環境負荷材を採用し省資源に配慮した。屋外などの耐用年数が一般にくらべ短くなると予想される機器及び材料は、ステンレスまたは、ガルバリウムを使用している。また鉄骨、鉄筋材料や舗装材等に再生資源を活用する。
	<b>LR3 敷地外環境</b> 周囲に対し大気汚染物質を発生させないよう、また光害を発生させないよう配慮した。空調、給湯熱源には電気を採用。 外壁についてもグレアを発生させないよう材料、色を選定した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される